

平成 22 年度 放課後子ども教室運営委員会

会 議 録

日時 平成 23 年 2 月 17 日（木） 午前 10 時から

場所 新川体育館 1 階 小会議室

清 須 市 教 育 委 員 会

会議出席者

| 氏名 | 職名 | 備考 |
|--------|-------------|---------------------|
| 伊藤 邦彦 | 小学校長 | 西枇杷島小学校 |
| 杉村 照代 | 学識経験者 | 健康福祉部 子育て支援課主幹（保育長） |
| 伊藤 文 | 保護者代表 | 3年生の保護者（西枇杷島） |
| 水谷 恵美子 | 保護者代表 | 1・3年生の保護者（清洲） |
| 西川 利子 | 保護者代表 | 2・3年生の保護者（新川） |
| 畑本 小夜子 | 保護者代表 | 1年生の保護者（春日） |
| 荻本 時男 | 放課後子ども教室指導員 | コーディネーター（西枇杷島） |
| 鈴木 治 | 放課後子ども教室指導員 | コーディネーター（清洲） |
| 柳本 和光 | 放課後子ども教室指導員 | コーディネーター（新川） |
| 中田 繁美 | 放課後子ども教室指導員 | コーディネーター（春日） |
| 内田 敏正 | 教育長 | 清須市教育委員会 |
| 浅野 富典 | 教育部長 | 清須市教育委員会 |
| 櫻井 広根 | 教育部次長兼課長 | 事務局 |
| 三輪 晃司 | 学校教育課学校教育係長 | 事務局 |
| 横幕 真也 | 学校教育課主事 | 事務局 |

はじめに

櫻井次長

それでは定刻となりましたので始めさせていただきますと思います。
私は教育委員会学校教育課で課長をしております、櫻井です。

本日はお忙しい中、清須市放課後子ども教室運営委員会へご出席いただきまして、ありがとうございます。春日放課後子ども教室の中田指導員さんは、所用があってそちらが済み次第とのことでして、運営委員会の時間内に間に合うかということが心配されますが、始めていただきたいと聞いておりますので、進行の方をさせていただきます。

はじめに机上に委嘱状を配布させていただいております。本来であれば、お一人お一人にお渡しするのが本意ではございますが、時間の関係もございましたので、机上配布ということで失礼いたします。それでははじめにあたりまして、内田教育長よりご挨拶をさせていただきます。

教育長 あいさつ

内田教育長

おはようございます。日ごろは市の教育行政にご協力いただきまして、ありがとうございます。今日は市の放課後子ども教室運営委員会ということで、指導員の先生方や保護者の代表の方々に現状と今後の課題をどうしていくかということをお話し合っていきたいと思っております。よろし

| | |
|-----------|---|
| | くお願いいたします。 |
| 議題 | |
| 櫻井次長 | それでは議題に入ります前に、皆様方のご紹介について自己紹介の形 でお願いしたいと思います。それでは右回りで春日の保護者代表の方か ら順にお願いします。 |
| 畑本委員 | 春日小学校放課後子ども教室保護者代表の畑本です。今年から1年生 で息子が入って、まだ1年しか通っていませんが、よろしくお願いま す。 |
| 西川委員 | 新川小学校の2・3年生の保護者の西川利子と申します。代表というこ とで言われたのですが、私一人の意見というよりは、先生には直接言え ないけれども、私になら言えるというような保護者の意見もアンケート をとってきましたので、また後でお話しをしたいと思います。よろしく お願いします。 |
| 水谷委員 | 清洲小学校放課後子ども教室の保護者の代表で来ました水谷恵美子で す。1・3年生の娘がいます。よろしくお願います。 |
| 伊藤（文）委員 | 西枇杷島小学校放課後子ども教室の保護者代表の伊藤です。子どもは 3年生です。いつもお世話になっております。よろしくお願います。 |
| 杉村委員 | 清須市健康福祉部子育て支援課の杉村と申します。よろしくお願いま す。 |
| 伊藤（邦）委員 | 西枇杷島小学校の伊藤邦彦と申します。よろしくお願います。 |
| 荻本委員 | 西枇杷島小学校の放課後子ども教室で夏からお世話になっておりま す。荻本と申します。よろしくお願います。 |
| 鈴木委員 | 同じく清洲小学校で放課後子ども教室を担当しております。鈴木です。 よろしくお願います。 |

| | |
|-------|---|
| 柳町委員 | 失礼します。新川小学校でコーディネーターを務めております、柳町和光と申します。新川小学校は今年で2年目となる放課後子ども教室です。経験を活かしながら進めております。よろしく申し上げます。 |
| 内田教育長 | 大変ご苦勞様でございます。教育長の内田でございます。よろしく申し上げます。 |
| 浅野部長 | 教育部長の浅野です。よろしく申し上げます。 |
| 櫻井次長 | 事務局の学校教育課長の櫻井です。 |
| 三輪係長 | 担当しております学校教育係長の三輪です。よろしく申し上げます。 |
| 横幕主事 | 事務局学校教育課の横幕と申します。よろしく申し上げます。 |
| 桜井次長 | それでは議題を進めさせていただきたいと思っております。まず議題1の実施状況について、事務局からご説明させていただきます。 |
| 三輪係長 | はい、三輪が説明させていただきます。現在、清須市では西枇杷島小学校区、清洲小学校区、新川小学校区、春日小学校区で小学校の施設をおかりして放課後子ども教室を実施しております。子どもの居場所づくりの一環として空き教室などを利用して、1年生から3年生までの児童が学習、軽スポーツ、伝統的な遊びなどを行っております。新川子ども教室については昨年度から、春日子ども教室については一昨年度から引き続き実施しております。西枇および清洲の子ども教室については今年度の6月から余裕教室、西枇小であれば旧理科室を使用し、清洲小では体育館2階のミーティングルームを使用しております。開所時間としては4施設とも給食のある放課後の午後4時半まで実施しております。給食のない日、及び夏休み、冬や休み、春休みは実施しておりません。保護者、またはそれに代わる大人のお迎えをお願いしております。料金は基本的には無料ですが、傷害保険費として500円をご負担いただいております。運営についてはコーディネーター1名とアドバイザー2名の3名で行い、週に1度はもう一人アドバイザーを増やして4名で実施しております。 |

櫻井次長

それでは事務局からは事務的な報告をさせていただきました。市内には8つの小学校があるわけですが、現在では4つの小学校で放課後子ども教室を開催しております。それではそれぞれの子ども教室の状況につきましては、それぞれのコーディネーターの先生よりご報告いただきたいと思います。

ではまず、西枇杷の放課後子ども教室の荻本先生からお願いします。

荻本委員

それではお願いします。西枇杷島の放課後子ども教室ですが、昨年6月に開設されて、当初70数名の登録がありました。その後追加もかなりありまして、80名を超えております。1年生の参加者が一番ありまして、2・3年生は少ないという状況です。1年生が火曜日は早く授業が終わりますので、その日は4名体制で運営しております。大体毎日20名ほどの参加者がありまして、多い時では40名ほどになることもあります。教室がひとつしかありませんので、30名を超えるとかなり手狭な感じになります。もうひとつ教室があればいいのかなとも思います。

それから、いろんな遊びをしております、自分たちで手作りで遊んでおります。また地域の方からも本などを寄付していただいたり、大変感謝しております。

毎日どんなことをしているかといいますと、まずは宿題をさせてから自由タイムということで、自由にゲームやものづくりなどをして過ごしております。1ヶ月に1回くらいは楽しめるものがあるといいなと思います、いろいろなお楽しみ会などを考えております。今までには七夕会、紙相撲大会、それから民生委員さんなどにも入ってもらい注連縄づくりなどをしました。また、ハロウィンパーティーやクリスマス会などですね。これからはひな祭り会やお別れ会などを考えています。そのようなことで毎日を過ごしております。

いろいろと物をつくるのが好きで、主にリサイクル工作ですが、アルミ缶や牛乳パックなど、いろいろなものを使いながら工作をしております。

要望としては、もうひとつ部屋があるといいなと思っております。

櫻井次長

それでは引き続きまして、清洲放課後子ども教室の鈴木先生、お願いします。

鈴木委員

はい、それでは私のプリントを見ていただけますでしょうか。清洲小

学校も昨年の6月から開設をしました。部屋はそこにあるように、最初入った時に非常にきれいな部屋だなと感動しました。そこを汚さないようにということで、毎日他の3名の先生方もきれいにそうじをしてくれていますし、子どもたちにも汚さないようにと指導をしております。ありがたいことに西枇と違いまして、部屋としてはとてもすばらしく、大きな部屋でございます。今、写真でご覧いただけますように、この勉強しているところが学習をしたり、あるいは室内で遊んだりしている部屋でございます。その隣に大きなフロアがありまして、そこも使わせていただいておりますので、そこでは風船バレーボールをしたり、卓球をしたり、あるいはこま回しをしたりしております。またもうひとつありがたいことに、その向かい側が体育館でございますから、そこも使わせていただいております。毎週木曜日は部活動がないものですから、体育館を使う日ということになっています。施設の面ではとても恵まれているかなと思います。

子どもの数ですけども、6月当初は57、8名で始まりまして。現在徐々に増えまして、90名ほどになっております。

日課については今西枇さんからお話のあったこととほぼ同じでございます。そこにも書いてありますが、清洲小学校は1年生の4時間授業が水曜日ですので、その日だけは1時55分、まあ2時からのスタートになります。その他の日は概ね3時からのスタートでございます。大体30分間の学習の後、自由遊びというふうに設定しています。それから今西枇さんの方から月一回の行事についてお話がありましたけれども、清洲の方は週に1回は何かイベントを行い、集団で遊んだり、ものづくりをしたりすると決めておりまして、毎月第一月曜日、第二火曜日、第三水曜日、第四金曜日には先ほど言いましたようなことをしております。

昨日は天気がよかったものですから、歩いて5分ほどのところに清洲公園がありますので、そこへ行ってきました。そんなこともやって変化をもたせながらやっております。ただ、西枇さんのお話を聞いておりまして、本来の趣旨からいいますと地域の方々の交流ということが、この放課後子ども教室の趣旨だろうと思うわけですが、うちの子供教室においては地域の方々と交流が行われていないものですから、そのあたりがうちの課題かなと思います。それをぜひ来年からやっていきたいと思っております。

それから裏側を見ていただくと参加状況等が書いてあります。グラフを見ていただくと分かりますように、6月1日から2月10日までですけれども、多いときは60人近いということがありましたけれども、最近寂

しいことに減ってきております。かつては30名をきることは一度もなかったんですけれども、最近では30名を越えることの方が週に1・2度という事で寂しいなと思います。その理由はいろいろとあるのかなとも思います。ひとつはアンケートに載せてあったかな。子どもたちが忙しくなったというのか、習い事に通ったり、他に用事がある、それまで毎日来ていた子が週に1・2回に減ってきてしまった。そういう傾向でございます。他にも理由があるかもしれません。このグラフの突出しているところは大概水曜日です。水曜日は1年生が早く授業が終わる日です。1年生から3年生まで全てそろそろ日です。あとは個人懇談会の日や短縮授業の日ですね、このあたりは50名ほど参加があります。それでも11月ごろまでは満遍なく30名から40名近く来てくれていたんです。10名の日がありますけれども、これは雪が降った日です。

それからその次のページ以降には1月末にアンケートをとりましたので、その結果が載せてあります。子どもの希望や保護者の要望等も書いてあるのですが、教育委員会の所管にかかわるものが多いですので、判断は教育委員会にお願いをしたいと思います。以上です。

櫻井次長

ありがとうございました。それでは新川子ども教室の柳町先生、お願いします。

柳町委員

どうぞよろしく申し上げます。私は教室だより、それから年間を通しての参加者の推移を参考になればとお持ちしました。そういったものを見ていただきながら、よろしく申し上げます。

子どもは2年目になりまして、去年の経験を踏まえながら、改善を加えつつがんばっておるところです。まず登録数はそこに載せているように1年生から3年生まで大体30名ずつ、ほぼ100名の登録ということでございます。定員規定がマックスで100名ということですので、途中で入りたいという方も何名かいらしたのですが、教育委員会を通じてお断りをしたということがございました。この100名という数字は、新川小学校全児童の40パーセントほどの子どもたちが、この子ども教室に登録をしているということになります。

それで参加状況なんですけど、先ほど清洲小学校の場合でもありましたように、うちも同じ状況でして、1学期のころは40名以上というのが常であったわけですけども、2学期に入りまして、30から40人、それから3学期に入りまして20から30人とやや少なくなってきております。今月なんかはですね、学級閉鎖があったり、また3年生なんかは部活動

の体験入部みたいなことで、週に3日ほど3年生が一人も来られないということで、最近はやや寂しい状況が続いています。グラフを見てもお分かりいただけるように、段々と減少傾向にあるということで、スタッフの力不足もあるのかなと申し訳なく思っておるところです。

これは去年と同じような傾向でもあります。1学期というのは新鮮でして、新しい環境、それから新しい友達が楽しいということでたくさん来るんですけども、やはり2・3年生を中心にあの空間だけでずっと過ごすというのは、やや飽き足らなくなってくるということが出てくる、あるいは外部に子どもたちの目が向くというようなことも出てきて、これも致し方ないことかなと思います。それから先ほどもありましたが、2・3年生になってくると段々忙しくなってきました習い事も増えてくる、あるいは行事などもあって子ども教室には来られなくなる。それから最近ひとつ思いますのは、保護者に必ず4時半までにお迎えに来ていただくわけですが、子どもは来たいんだけど、保護者さんのご都合でやむなくということもある。そういうことを親御さんや子どもを通じて聞いています。

全体としては登録者のほぼ30パーセントくらい、25人から35人くらいの参加です。逆にいいますと最近減ってはきたんですが、あまり人数が40人から50人となってきましたと、私たち3人では、学年もクラスも違う、そういう子どもたちが集まると交通整理だけで大変ということもありまして、30名から35名くらいの方がある意味で適正な、落ち着いて子どもたちと向き合えるちょうど適度なところかなと、そんなことを思ったりしております。

個別に参加状況を見ていきますと、よく来る子、それからたまにしか顔を見せない子と、こういう色分けがされてきたように思います。中には登録は済ませてあるんですけども、一度も顔を見たことがないという子も10人くらいいます。何かあった時に500円だけ払っておけば、まあ腰掛的と言いますか、そんな状況があるわけですけども、私たちからして、その子たちに対して大変残念に思うわけです。一方では、この時間を楽しみにしてくれている子もいて、その子たちにとっては、この子ども教室が大切な居場所のひとつになっているのかなと、そのように感じております。

続きまして、日々の活動の内容についてですが、これは他の子ども教室と同じような部分になるわけですけども、日によって参加人数もまちまちですし、それから曜日によっても早く来る子、遅く来る子、そんなことがあります、なかなか大きなことはやれないんですけども、

そうした中でも子どもたちの楽しみが少しでも増えるように進めております。

はじめの30分くらいは「静かタイム」としていきまして、宿題をやったり、本を読んだりして静かに過ごします。それから3時半ごろから4時半ごろまでは「ふれあいタイム」でして、ここでは子どもたちが好きな子同士で好きなことをしており、そこへスタッフも積極的に交わっていき、状況を見ながら過ごしております。子どもたちもこの後半の時間を大変楽しみにしております。4時過ぎになりますと、保護者の方々もぼちぼちとお迎えにみえるようになります。

日ごろはそういうふうですけれども、何かイベントごと、なになにに大会とか、鑑賞会、講習会というようなことも載せておりますが、そのような時はみんなでひとつのことをやって、時間も決めて一斉にやりましょうということにしています。勿論、こういうことは意図的に組むわけですが、せっかく来た子どもたちに何か楽しい時間を過ごさせてやりたいと、みんなで一同に触れ合える機会を持たせてあげたい。そういう気持ちで考えてっております。こうしたことが子どもたちの豊かな体験、居場所作りという目的にも合致する。そういうふうを考えております。

子どもたちもこういう時は目を輝かせて来てくれます。ちょうどですね、2月はじめに節分関係のことをやったり、今は毛糸だけで作れる指編みでマフラーを作っています。

それからですね、今年は力を入れていきたいなとやってきたのが、保護者や地域の方など外部の方にできるだけ入っていただいて、子どもたちにいい体験をさせてあげたいなということでやっています。去年はできなかったものですから。おかげさまでですね、今年は音楽鑑賞会、手品ショー、あるいは切り絵遊びや創作活動、そんなことで地域の方、それから保護者の方はかなり入っていただくことができました。保護者の方は本当に手弁当で、材料なんかについても、私でもちますよというふうですね、本当に協力してやっていただいております。大変ありがたく感謝しております。

こちらに代表で来ていただいている西川さんはですね、大変いろいろなことで協力をしていただいております。前にもですね、マジックショーをやっていただきました。なんと77人もの子どもたちが来ました。それでまた3月にも創作活動にご協力していただけるということで、今打ち合わせをしております。

毎月の終わりにはですね、来月の予定表を配って知らせております。

保護者の方が大変協力的で、ほとんどの方が4時から4時半の間にお

迎えに来ていただいて大変ありがたいと思っております。大きな事故とか、あるいは苦情といったこともなくここまでこれで本当にありがたいなど、こう思っております。全く課題がないわけではないですけども、これからもいろいろなことを勉強しながら、改善に努めながら進めてまいりたい。そんなふうに考えております。どうぞよろしく申し上げます。

櫻井次長

ありがとうございました。続きまして、春日の中田コーディネーターの方はまだ見えていないわけですけども、概略的なことをこちらの方にコメントをいただいておりますので、事務局の方からお話させていただきたいと思います。

三輪係長

中田様からコメントをいただいておりますので、代わりに発表させていただきます。手芸品が買えなかったところをトウカイ手芸センターで買い物ができるようにしていただき、ありがとうございますということと、小学校の先生方も協力的でありありがとうございますと書いてございます。下校時に放課後の先生の言うことを聞くんだよと指示してくれたり、学校で体調の悪い児童については、そういったことを連絡してもらえるということです。それから、毎年年度末くらいになると慣れてくるので、子どもたちも保護者の方も私たち指導員とコミュニケーションがとりやすくなり、楽しく日々を過ごすことができ、放課後は必要だなと感じます。来年度以降もぜひ続けていただきたいというメッセージが寄せられています。

春日放課後子ども教室さんの方で、12月に20人からアンケートをとったということで集計が来ております。そこで4問ありまして、「子ども教室を楽しみにしていますか」ということで、「している」「ふつう」「していない」とございまして、「している」というお子様が14名、「ふつう」と回答したお子様が6名、「していない」が0名ということでした。2番目に「イベントを楽しみにしていますか」ということで「している」が15名、「ふつう」が5名、「していない」が0名でした。3番目に「改善した方がよいことはありますか」ということですが、指導員に対して楽しく安全に過ごせる、親切で熱心で指導員については感謝のご意見が多く、創意工夫で努力されているということが書かれています。教育委員会に対してという項目がありまして、定員があるので中の良い子が入れないということや、春日地区では今年初めて抽選をしたわけですが、定員を増やしてほしいというご意見が多数ございました。

櫻井次長

はい、それぞれ4地区の運営についてご報告をいただきました。前にも触れましたように、それぞれ学校の空き教室、あるいは体育館の会議室のようなスペースということで、それぞれ空間が学校によって違うわけです。西枇杷は普通教室より廊下部分だけ少し大きい教室で、新川は普通教室2つ、清洲の場合は体育館の2階にある会議室といたしますか、そこを子ども教室用ということでパーテーションでフロアやホールがある。春日の場合は体育館の会議室を改装したところで、清洲よりは狭いスペースの中で、スタッフが同じようにやってくれているところです。

問題点も指摘されているところですが、今日は保護者の代表の方々もみえますので、西枇杷地区の伊藤様の方から順にお願いします。

伊藤（文）委員

よろしく申し上げます。娘は3年生におりまして、週に1回から2回ですけれど、参加しております。学校行事や授業が6時間目まである日などやむを得ず参加できない日を除けば、本人は30分でも行きたいと言っているのです、楽しみに毎週通っております。

とてもよいと思っていることは季節の行事を非常に大切にしてくださっていることです。季節感を忘れている子が多い中、地域の方と注連縄を作るとか、あと本読みのボランティアの方など、地域との交流を図っていただいていることは、とてもよいことだと思います。

それから1年生から3年生までの子どもたちがひとつの教室にということで、縦割りの魅力をすごく感じます。うちの娘は3年生で、1・2年生の子たちのお姉さんみたいなことをして、「今日、私これ、ちょっと早くできたから1・2年生の子たちに教えてあげられたんだよ」という話をして喜んで帰ってきます。

他の保護者からお話を聞いてきた範囲では、特に3年生の男の子は外に出られない中で、ちょっとお部屋が狭いので、もっとお部屋が広がったらいいなという意見がありました。

それから4時半下校ということで、お勤めしている方は4時半までにお迎えができないから学童保育とちょっと迷っているという声も聞きました。

最初始まるときに、子ども教室のことがちょっと把握できなくて、「なんだ、トワイライトのことだったのね」って言っていました。「それが分かっていたら最初から登録できたのに」と、後から追加登録できることが分からない方からはそんな声も聞きました。

あと、祖父母の自宅が遠い方からは、ほんのちょっとした間でもこうして預かっていただけるのは大変助かるとおっしゃっています。

いろいろなことを聞いてきましたけれども、全般的にとても楽しみにしているということと、来年も続けて子どもたちを預けたいなという声を預かってきました。よろしくお願いします。

櫻井次長

はい、ありがとうございました。子どもたちが生き活きと通ってみえる様子をご報告いただきました。

それでは引き続き、清洲の水谷様、よろしくお願いします。

水谷委員

清洲地区も去年の6月からはじまっています、私自身は放課後児童クラブから放課後子ども教室へ異動するというかたちで所属の変更をしました。一番魅力的だったのは、無料だということで飛びついたというのが本音なんです、内容的には放課後子ども教室も児童クラブもほとんど同じようなかたちで進んでいくんですね。たとえば、学校が終わったら、まず宿題をして、児童クラブの場合はおやつのあるんですが、放課後子供教室ではそれはないんですが、その後は自由時間ということで、一連の流れが一緒でしたので、登録を変更してよかったなと思いました。

時間については、自分自身が働いているということもありまして、先ほど鈴木さんも言われたんですけど、お迎えが行きにくかったりと、親の都合で休ませてしまうことが多くて、とても残念に思っています。

それから、先ほど来たときにパラパラと資料を見たときに、地域の方との交流は来年以降やっていただきたいなとすごく感じました。

私も途中から名古屋のトワイライトと一緒になんだなと気づきまして、トワイライトの場合ですと、6年生まで登録ができるということを伺いまして、清須市でも登録の年齢を上げていただけるとありがたいなと思います。うちの子の場合でも、上の子が3年生でして、来年から行けなくなることを大変残念がっていますので、せめて高学年になる前までは行かせていただきたいなと自分自身は思っています。

それから要望ばかりで申し訳ないですが、遠足の時が一番困りまして、いつもですとお姉ちゃんが先に帰ってきて、その後で下の子が帰ってくるというパターンだったのが、遠足の時だけそれが逆になってしまって、ちょっと不満な部分もあったので、遠足の時だけでもいいので受け入れをしていただけるとすごくありがたいなと思いました。

やはりお話を聞いていて、清洲は本当に恵まれているなと思ったのは、すごく広いスペースで伸び伸びと遊ばせていただいているので、その点は感謝したいなと思いました。よろしくお願いします。

櫻井次長

はい、ありがとうございます。続きまして新川の西川様、お願いします。

西川委員

お願いします。うちは去年今年と二人の娘を2年間続けて月水金とほとんど通わせていただいています、私もいつも迎えに行っていますので、子どもたちがどういう状況でどんな遊びをさせていただいているかを、いつも見させていただいています。

夏なんかは柳町先生も汗だくになって、子どもたちと体を使って遊んでくださったり、うちは女の子なんですけれども、先ほどもお話がありましたように指編みや三つ編みのような、私も知らない技術を放課後子ども教室で覚えてきて、家でやってくれたりします。それからオセロや将棋などにも興味をもつようになり、また羽根つきなどのような季節の行事などについて、保護者ではなかなか教えてあげられないような部分を先生方が教えてくださっています。

それでいつも感謝したいという気持ちで、ちょっとマジックをさせていただいたり、楽器を持ってみえる方に演奏をお願いして、子どもたちに喜んでもらって、貢献できたかなと思っています。

それから、他の保護者の方にもお話を聞いてみたんですけど、放課後へ来ない日はどうしているのかというと、結局時間を持て余してしまって、お友達と遊ぶ約束をして、遊びに行く。3年生くらいになると、自分で自転車でふらふらと友達の家まで行って、遊んで帰ってくるそうです。正直、自分で行けるならそれでもいいかなと思いつつ、やはりそうやって自転車で遊びに行くことが何となく心配なので、その点子ども教室なら学校の中でお友達と遊んでいられるので安全だなと思います。

それから新川のお母さんたちも時間を延長してほしいという希望です。名古屋のトワイライトだと6時半くらいだと聞きますので。

あとですね、これも皆さん言われたんですが、迎えに行くのではなくて、ある程度の時間になったら、ある程度の分団に分けて帰宅をさせてもらえるとありがたいなという意見があります。

それから登録の際に500円の保険料を払うわけですが、先ほど先生の方で全然来てない方がいるというお話がありましたが、登録をされなかった方に、どうして登録をされなかったのかお尋ねしたら、自宅が学校から離れたところにあつて、やはりいつも迎えに行くよりも自分で帰ってきてもらって、近くで遊んでいてもらえればそれでいいわとおっしゃる方もいらっしゃいました。

あと、登録する際には最初に手続きをしないといけないわけですが、やっぱり1年間という期間の中で、保護者がどうしてもこの日だけ子どもの帰宅時間から遅い時間まで何か用事があって、一人で留守番をさせてしまうような時にポイント的にお願いできるようなシステムがあればいいなという声もありました。よろしくお願いします。

櫻井次長

はい、ありがとうございます。引き続きまして春日の畑中様、お願いします。

畑中委員

春日では2年前からやっています、保育園の時から私の周りでは近所のお母さんからお子さんを放課後教室に通わせているという話を聞いて、うちも行かせたいわというふうに、春日ではトワイライトのような感じで定着しています。

うちの子はほとんど毎日行っていて、家ではできないような工作、例えばダンボールで家を作ってみたり、大きなロボットを作ってみたり、家でやられるとこっちが困ってしまうようなことをやらせてくれるんですよ。うちの子は工作が大好きなので、今週はそういう週間だから月曜日から金曜日までずっと通うと言っています。

私自身も仕事をしていまして、周りの方も言われることは、もう少し時間を長くしてほしいということですね。

それから春日ではもう定着していて、行きたいという子が1年生からすごく多いんですね。それで私の時も抽選だったんですよ。3年生までに同じ世帯から上の兄弟がいれば、もし1年生の子が外れても、上の子の分をもらえるということがあるみたいですが、兄弟で行かせてあげたいということがあるみたいですね。うちは通ったんですが、やはり登録しても10人くらいは年間通じて1度もみえないというお子さんもいるみたいなので、もう少し受け入れをしてほしいというのがありますね。

地域の方との交流でもハーブの演奏とか、全然日常では触れ合えないものに、その時は触らせてもらったという経験もとてもいいですし、私も助かっています。息子も来年も絶対に登録したいと言っていますが、でも抽選で外れたらどうしようということが心配ですね。

櫻井次長

はい、ありがとうございました。それでは各地区から代表の方、それぞれお話をいただき、課題も多いというふうに受け取っておりますけれども、そういうことも含めまして新年度の運営の方を考えていかなければいけないと思いますが、学校との連携という観点から伊藤校長先生、

よろしくお願いします。

伊藤（邦）委員

はい、たくさん意見が出ましたので、自分が気がついていることをお話しします。時々私も覗かせていただきますが、子どもたちが本当に楽しそうに活動をしていまして、コーディネーターの方やアドバイザーの方々も苦勞してやっつけてくださっていますので、本当に感謝をしております。4点お話をさせていただきたいと思います。

まず1点目なんですけれども、この4月から授業数が学習指導要領が新しくなる関係で増えてくるんですね。それで1年生で、毎日5時間。2年生で6時間という日が出てくる。多分どこの学校もそういうことになってくると思いますが、そうなってくると、6時間授業をやってから子ども教室へ行くと30分くらいで終わってしまう。ですから、そういうことも考えると4時半という終了時間が、特に日が長い夏なんかだともう30分くらい延ばせられないかなと思うんですね。冬はやっぱり早く暗くなるし、帰らないといけないかなと。そういうことを思います。

それから2点目は、学校の方では学校支援ボランティアというかたちなどで、いろんな方々にボランティアに来ていただいております。授業の場面や読み聞かせでも、それからふれあい活動などいろんなところでご協力いただいております。そんな方々の中で子ども教室の方へも読み聞かせに行つてあげてもいいよと、そんな話も聞きまして、そうした活動もこれから活発になってくるといいなと思います。

それから3点目ですが、これは西枇杷島小学校の問題ですけれども、場所がどうしても狭いということで、活動をするにしても制約があるし、受入人数についても制約があつて申し訳ないなと思っています。もう少し広い場所が確保できるかという問題はいろいろ検討しながらですね。運動場や体育館等が空いている日には使つていただければと思います。

4点目です。これはちょっと苦情になつて申し訳ないですが、保護者のマナーなんですけれども、今年は雪が大変多かつた。それで校門の外にお迎えの車が3,4台ずらつと並ぶんですね。ちょっとこれは困るなと思つておるんですが、いろいろな機会にそういったことも保護者の方にお伝えさせていただきたいと思います。

櫻井次長

はい、ありがとうございます。来年の課題が見えてくるようなご発言もいただきました。ありがとうございます。それでは児童クラブの関係と放課後の関係では違いもあるわけですが、杉村先生、何かありましたらお願いします。

杉村委員

今日は皆さんの熱心なお話を伺いまして、私は保育園から子どもを送り出す、それから小学校から中学校へ子どもを送り出すというところにはありますが、皆さんが一番不安な1年生に子どもを送り出す時、それから1年生から3年生に送り出すまでの子どもたちのことについて、地域の皆様がこんなに熱心に考えていただいているということに安心しましたし、保育園や児童館の保護者の皆さんにも機会があればどんどん伝えていきたいなと痛感いたしました。

それからあと1点は、子ども教室さんの熱心な活動と児童館の活動について、見直しが必要じゃないかなと思いますので、また現場に戻りましたら、児童館にも話をしましてがんばっていきたいと思いますので、またいいお知恵がありましたら、教えていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

桜井次長

はい、ありがとうございました。児童クラブと子ども教室は似ているようで内容が違うということで、保護者の就労関係もありますし、まあそれは子どもさんには直接関係はないんですけども、親御さんの関係で違いがあるということです。そういうことも踏まえまして、今までそれぞれご意見、活動内容、または保護者さんからですと要望であるとか、それから校長会会長の伊藤先生からは新年度は学習指導要領の変更によって、授業が終了する時間帯も変わるということもありまして、平成23年度の放課後子供教室の運営をどのようにしていくかという、議題2番の方でございますが、そちらに移りたいと思います。

今までの内容とこの4月からの内容で、指導要領なんかですと1年生で毎日5時間、2年生については週に1時間増える。そこで子ども教室に参加する時間帯も変わってくるということもあります。今まで私の方でも春日地区を抽選でしぼらせていただいたというのも、ひとつは安全に運営させていただきたいがために止む無く抽選をさせていただいたわけなんですけれども、そういうことも含めて、例えば西枇杷の教室、清洲の教室等それぞれ児童の数も違いますけれども、それとともに今年度初めて開設した地区、あるいは昨年度に開設した地区の中で、保護者の方々へこういう安全に過ごせる時間と場所があるということが広く知られるようになれば、登録者が増えてくるだろうということを踏まえまして、平成23年度の運営をどのようにしていけばいいかということを経務局の方からお話させていただきます。

三輪係長

それでは説明させていただきます。来年度も西枇小地区、清洲小地区、それから新川小地区と春日小地区で実施させていただきます。古城小学校、清洲東小学校、星の宮小学校、桃栄小学校については、空き教室等ですね、少人数クラスに向けての教室確保の関係で計画がございませんので、この4教室で進めていく形をとりたいと思います。

それで1番の問題としては定員の問題ですね、100人という枠がありますので、これをどう進めていくかお話をしたいと思います。先ほど出ていました新指導要領で1年生が5時間授業になるということもございます。1年生は申し訳ないですが、5月の連休明けからということで、まず教育委員会が実施している事業ですので、まずは通学路や近隣の状況を子どもたちに教えたいということで4月は下校で通っていただきたいと思います。2,3年生は始業式の翌日から始めたいと思います。

話は戻りますが、問題としては定員と運営時間ですね。終わりの時間をどうするかということですね。傷害保険は500円ということで、変わりませんので問題は先の2点。この2点について、お話をいただければと思います。

定員の関係なんですけど、予算的には指導員の予算は昨年度同様額しかいただけませんでした。週3人体制ですが、週1でプラスの1人の4人体制で進んでいきます。これで定員を撤廃した場合、現場の運営に支障はないかということをごディネーターの先生方に伺いたいのですが。

柳町委員

新川小学校の子ども教室の場合は、当初たまたま100名でスタートしました。それ以降何とか入れていただけないかという保護者の方子どもさんが何名かいらっしゃいました。だけど、定員の関係でひとりも増やすことができませんでした。100名という登録に対しまして、実際に来る子はですね、1学期はグラフにありますようにちょっと多くて40人を超したりしていましたが、最近ですと30人から20人ぐらい。それぐらいですと、もうちょっと定員を増やしても実質やっつけていけるかなと、そういうことを思います。

本当に来たい子が何人かいるものですから、逆に腰掛的な子で全然来ない子もいる。兄弟のことや保護者の事情などいろいろなことを慮るとですね、なかなか抽選というのは馴染まないのではないかな。仮に登録が100人を超えたとしても、70人、80人来ることは現実にはありえないものですから、もうちょっと保護者の要望を聞いてあげても、新川小学校の場合はやれるかな。またそうしてあげたいなという気持ちです。

荻本委員

西枇の場合はですね、やはり教室がひとつしかないということで手狭です。机も8つありますが、30名も来るといっばいになってしまって、これ以上になると勉強するところもないという状況ですので、今の状況が一番いいですね。今80名ほどの登録者がありますので、100名になるとちょっと大変かなという気持ちです。

鈴木委員

清洲のことを言うと、本来の趣旨からいうとですね。今までのお話でもありましたが、来たいのに来られない子もいるということは、本来の子ども教室の趣旨からいえばいけないことです。定員をなくしたとしても、常時60名を超えることはないと思うんです。常時は多くても30名から40名で留まるだろうと思います。短縮授業の時はたくさん来るかもしれないですが、それはそれで対応を図ることができますから、僕はたくさん来ていただいた方がありがたいわけですね。やりがいがありますから。

できたら3年生に限らず、5、6年生は難しいでしょうが、せっかく今やっている子たちが4年生にあがったら子ども教室を卒業かということになるのはどうなのかなと思います。そうは言っても4年生はそんなに来ないと思います。問題はロッカーの問題が一番大きな問題になるのかなと思います。うちは90くらいのロッカーがありまして、固定にしていますけれども、その辺りはまた考えれば何とかありますからね。安全面も50名を超える日が年間何回かありましたけれど、やれましたから。やはり、希望者全員が入れるのが本来のあり方だろうなと思います。

中田委員

春日なんですけれども、新川と同様に希望者全員受入可能にしたいなと思います。春日は規模が小さいですので、106人という数字で、6人をきるという日もありましたから、この100人も絶対に来ることはないですので、大体20人から30人です。多いのは年間、PTA総会と就学時健診の時の2回くらいです。その時には3人体制というのを臨機応変に、他のところで少なくすれば、ここで4人体制を作れば何とか対応できると思います。

やり方も時間割を組んで、何時から何時までは外へ行こうねということで考えてできますから、実際それでやってきまして大成功しています。人数が100人来ることは3年間やってきて一度もないですから。登録しても一度も来ない子もいますし、一方で4時半まででも何とか見てほしいという方もいます。なので、こういう方が入れなくて、一度も来ないような子が入れるというのは、指導員一同理不尽だなと思っております。

やはり、臨機応変に考えて、みんなのできることは骨折らせていただきたいと思っています。行政の方もそのあたりを考えてほしいと思います。

三輪係長

西枇小学校さん以外は人数が増えてもやっていけるというご意見でよろしいでしょうか。

内田教育長

ちょっといいですか。お話を聞きながら、まず第一点は、地域の方との交流をもっと進めていただきたいし、ボランティアの導入もできたら進めていただきたい。これは4つの地域すべてについてですね。

問題は時間ではありますが、市としては構わないんですが、指導員や補助をする方々の都合はいいのかということです。例えば、1年生が5時間目まで授業をやると、帰りの会なんかをいろいろやって担任からの連絡を受けてから子ども教室に来るのが、大体2時45分か50分になると思うんですね。そうすると、時間を4時半までなのを5時までとすることについて、市はいいんですが、やってもらう先生方はよろしいかどうか。こういう問題がまず第一点。このことについて一度それぞれ話し合っていていただいて、また教えてください。

それから遠足の話がありましたが、遠足が普通の日であれば、これはお願いしてもいいんじゃないかなと思います。その他、学校によっては特別な行事があるかもしれません。

ただ、分団で帰らせるというのはちょっとこれは困るんです。何が困るかという、例えばいろんな問題が出たときに対応ができません。

それから定員の問題があります。僕はこの100名という定員にはこだわらない。希望者全員が入ってもらえるならば、その方がいいと思います。ただ、一番大事な安全かどうかです。安全が確保できないようでしたら、これは逆に大きな問題になりますので、ここがひとつのポイントになると思います。特に部屋の問題があります。今後、国は35人学級をやってまいります。そうしますと、教室は今でも清須市は若干足りない状況です。名古屋市や東京都の大都市では空き教室がどんどん増えている。ですので、この放課後子ども教室の出発点はこうした都市問題だったんです。ですから名古屋のトワイライトは進んでいるわけです。しかしながら、清須市の小学校の場合は名古屋のように過疎化しているわけではありません。

それからもうひとつは、清須市は皆さんご存知のように児童館がだいぶがんばってくれていますので、この児童館と子ども教室が両方あるわけです。放課後子ども教室が絶対に必要かという議論になれば、そんな

に必要ではない。こういうことです。それで今学校では30年前にたくさん
の児童が増えたので、学校をたくさん建てました。先生もたくさん入
りました。しかし、それ以降どんどん減りました。しかし、空き教室が
たくさんあるわけではない。どうしてかといいますと、今学校では特別
教室化をしてきていまして、少人数指導のための教室、ひとつのクラス
をふたつに分けてふたつの教室で指導をする。あるいは低学年用の図書
室を作るといこともやっている。ですから、今さらそれをまた元に戻
すというわけには、なかなかまいらない。そうなると、35人学級という
ことを今後やっていけば、教室が絶対足りない。こういうことなんです。
ですので、急に子ども教室用の部屋をどんどん増やしていくというこ
とは不可能なんです。名古屋市の場合では可能ですが、清須市では不可
能なんです。私のところにも、今放課後子ども教室がある4つの地区以外
のところから、ここにはないので作ってくれという要望が入ってきます。
しかし、実際にはそこに学校に空き教室がないということなんです。

6年生までの登録ということも言われたんですが、実際には6年生く
らいになると部活動や塾ということで、実際にはほとんど来ないだろ
うという問題もありますから、これも難しいだろうと思います。

ですから、まず申し上げましたように、時間を延ばすこと。これは指
導員の先生方の判断でやっていただけるのであれば、始まりの時間も今
後遅れるもんですから、その分だけ勤務の時間をずらすということは可
能じゃないかと思います。

それから遠足も普通の日であれば開いていただいても問題はないんじ
ゃないかなと思います。

定員に関しては抽選ということよりも安全ということを考えて上で、
現状の部屋でそれをクリアできるのであればお願いしてもいいのでは
ないか。そういうことを思います。

三輪係長

ありがとうございました。定員については清洲、新川、春日につい
ては撤廃ということで、西枇杷については定員を維持ということですね。
どうですか、今ですと定員が100名なんですが、100とうたって募集を
かけるということではいかがですか。

荻本委員

今くらいがちょうどいいんですけど、1年生の子がたくさんいまし
て、来年もまた来たいという子がたくさんいますので、そこへまた来年
度の1年生もかなり増えるんじゃないかと思います。

| | |
|---------|---|
| 三輪係長 | そうすると抽選というかたちですね。定員は 80 名が妥当ということですか。 |
| 荻本委員 | そうですね。そのくらいが一番ありがたいですね。 |
| 三輪係長 | 伊藤さん、どうですか。 |
| 伊藤（文）委員 | <p>もともと、安全で安心であるということが、親としては預ける最大の条件になると思うんですが、80 人という人数は、それが全員来ることはないと思います。4 年生以上も預かってほしいなんて、そんなことはとてももう申し上げられない状態です。そういうことは十分分かっています。先生方も汗だくでやっていただいていますので、気持ちは分かるんですが、抽選となりますと、例えば兄弟姉妹のあるところでは片方だけ通ってしまった場合ですとか、先ほど中田先生のお話でもありましたように、どうしても預かってもらわないといけない状態にある方にとってはスポット的な頼みどころにはならないので、ぜひ抽選でないような方法でお願いしたいと思います。</p> <p>いつもお世話になっていて、先生ごめんなさい。抽選だと、本当にお願いしたいと思っている方のことを思うとつらいなと思います。</p> |
| 荻本委員 | やはり登録しちゃうと来ない子もいますので、どうしても助ける必要のある方を優先することはできないでしょうか。 |
| 三輪係長 | だけど、児童クラブと違いますので、証明書を出してくださいとか、必要度が見えないので難しいですね。この子は来ないから来年度は登録から外してほしいというようなことも、行政の立場からは言えませんので、そのあたりは難しいですね。 |
| 内田教育長 | 児童館とだぶって登録というようなことはないね。 |
| 三輪係長 | できないです。子育て支援課とメールでチェックをしております。重複はないです。 |
| 内田教育長 | <p>西枇は福祉センターだね。時間的に長く見てもらいたいというお母さんは、大体児童館を選ぶわけですね。</p> <p>だから、この放課後子ども教室を名古屋市のようにどんどん進めてい</p> |

くと、今度は児童館と子ども教室のケンカになるんです。名古屋市はいところだけが外に情報が出てきているわけですが、ものすごいケンカなんです。名古屋市の河村市長なんかも、どこの小学校にも作ろうとしてやりかけて、もめて失敗したところもあります。名古屋市はこのことについて、確かにいろいろと先行しているところがありますが、実際にはいろいろな問題があるんです。放課後子ども教室と児童館の兼ね合いがうまくいくか、こういうことであります。

杉村委員 | 来年度の児童クラブの申請はもう終わっているんですが、小田井児童館さんなどの西枇杷の児童館は人数が少ないという報告があります。

内田教育長 | ということは。

杉村委員 | ということは、放課後子ども教室。

内田教育長 | 放課後子ども教室へ動いているということだね。

伊藤（文）委員 | すごくいいという話は今年1年たくさん聞きましたので。

伊藤（邦）委員 | 西枇杷島小学校、もっと教室を空けたれよというお話をいただいたような気がするんですけど、仮に何とかして教室を空けたとしても、それを放課後子ども教室用にするには改装する予算が要りますので、この4月から使うというふうにはまだ難しいと思います。もう少し時間をかけてその声に応えられればと思います。

内田教育長 | もともと、西枇杷地区は児童館が学校から遠いという悪い傾向があるんだね。だから、今回のような放課後子ども教室へ流れるということが起きてしまう。

中田委員 | はい、すみません。水をさすようですが、基本的に自分の生んだ子どもは自分で育てることが基本だと思うんです。それを少しお手伝いして、核家族化しているのでストレス解消にもなればという、そんな思いで私たちもがんばらせていただいているので、時間をどんどん長くするのは子どもたちもかわいそうだし、じゃあ親子関係のコミュニケーションの時間をどこでとるんですかという問題になりますので、時間をあまり長くしないほうがいいと思います。

それでどうしても時間を長くしてほしいならば、児童館というシステムを利用してもらう。放課後子ども教室と放課後子どもクラブというのは違うんだよということが大切です。この今の体制では難しいかもしれないけれども、このうやむやなところがね。でも子どもたちはやはり、家が一番いいんです。自分たちの両親が一番いいのは当たり前のことです。そのこのところを保護者の方も理解していただきたいですね。用事があるのは私たちも子育てを経験してきて分かっていますので、そういう時に少し預けられる。この自由気ままさがすごくいいんじゃないかなということ、これをまたどんどん遅くしていったら、日本はよくない方向に向かっていくような気がしますので、ここは皆さんで、子どもたちを第一に考えて進んでいきたいというふうに思います。

鈴木委員

今、春日さんからそういう話がありましたけれども、教育長さんのお話を聞いていますと、これは私たちの勤務のことですが、時間的なことについては各子ども教室は今までは1時から5時だったけれども、例えば裁量でお迎えを5時にして、当然これは我々の勤務のことも関わってきますから、その場合は1時半から5時半までの勤務にして、子どもたちのお迎えは5時にする。というのは、先ほど邦彦先生もおっしゃられたように、今年までとは来年からは大きく違う。今までは水曜日は子どもたちが2時に来るもんだから、我々は1時に入っていましたが、基本的にはこれからは1年生の子たちも3時にしか来ないと。1時に出勤して3時まで何をやっているか。時間がもったいない。たった1時間ちょっといるだけで帰ってしまいますので、これではあまりに非効率的だし、何のためにいるのか分からないので、できたら1時半に勤務について5時半までということにして、親御さんには5時までにお迎えに来てもらえればありがたいなと思います。

ただ、これは先ほどもありましたようにスタッフの問題もありますので、スタッフの方々もそれでいいかどうかということですね。僕はもう3人のスタッフには確認をしておりますので、清洲はそれでいいということです。ですので、うちとしては、教育長さんがおっしゃられたようにそうさせていただきたいなと思います。

柳町委員

新川の場合もほぼ同じような思いを持っております。保護者の日々のやりとり、保護者の願いというものもあります。もうちょっと遅くまでやってもらえると子どもたちも楽しみにしているので、それが叶うんですけれども、4時半から5時という時間は、保護者のお勤めの昼間の時

間からしても、そういった意味ではとても大事な時間だと思うんです。

ですから 30 分伸ばすことで、多くの保護者の方々からは非常によかったと思っていただけるんじゃないか。それくらいのことでしたら、子どもたちの来る時間もやや遅くなるということがあるものですから、1 時半の 5 時、我々の勤務は 5 時半というふうにする。これは通常の範囲内ではないかと思います。少しでも保護者や子どもたちの意に沿いたいな、そんなふうに思います。うちのスタッフも同じ気持ちです。

三輪係長

それではコーディネーターさんには、それぞれのスタッフの方に 1 時半から 5 時半までの勤務に移行しても大丈夫かどうか、一度聞いていただきたいと思います。

内田教育長

要綱の方は議会の決議はいらないので、教育委員会の方だけだからやれるでしょう。だから終わりを 30 分ずらすことに現場の皆さんが大丈夫ということであれば、うちとしてはそれでいいと思います。

鈴木委員

あと、時々ですね、短縮授業や就学時健診の時などに 1 時半過ぎにすぐ来てしまうことがあるんですけど、そういう時は勤務の時間の割り振りを変更して、早く出てくる人なんかを決めて、業務の中で時間帯をずらしてやっていけばいいですね。

三輪係長

ええ、そうです。1 時半のところを 2 時半にさせていただいて、時間の調節をしていただきたいんですよ。

鈴木委員

4 時間という 1 日の枠や週の中でね。

三輪係長

ええ、申し訳ないですが、予算もぎりぎりでございますので。

内田教育長

それから問題はね、冬はどうするかということだね。冬になると、その時間では真っ暗だわね。5 時だと。

鈴木委員

どっちみち部屋の中にいますし、その頃は外遊びをしませんから。

内田教育長

冬だと高学年でも 5 時には学校にいないんじゃないか。

伊藤（邦）委員

おりません。

| | |
|---------|---|
| 鈴木委員 | 親は迎えに来ますし、5時というふうにしておけば4時半くらいにはお迎えが始まりますよ。実際に今でも3時半くらいに迎えに来る方もみえますから。 |
| 内田教育長 | 逆に高学年の子が家に着いたら、お母さんがいないということにならないかね。 |
| 中田委員 | それはお母さんに考えてもらって、お兄さんが帰ってくるのはこの時間だから、この時間までには迎えに行こうかというふうに、お母さんに考えてもらえないでしょうか。 |
| 内田教育長 | まあ、そういうふうならいいね。 |
| 畑本委員 | 実際、放課後に下の子がいて、上の子のクラブ活動が終わって下校する頃にお母さんがもう待っていて、一緒に帰るということを春日ではやっているから、そこはもう調整してやっていると思います。 |
| 水谷委員 | 5時までやっていただけるなら調整します。 |
| 三輪係長 | 伊藤先生、5時半だと先生方が全員帰ってしまって、校門が閉まってしまうということはないですね。 |
| 伊藤（邦）委員 | 基本的にはそういうことはないんだけど、何とか対応します。 |
| 柳本委員 | 子どもたちは本当の冬場ですと、小学校の場合は4時45分くらいまでには下校の最終になりますよね。 |
| 鈴木委員 | もっと早い。4時ごろには帰っていますよ。 |
| 伊藤（邦）委員 | 学校の職員の勤務時間のことになるともう終わってますよね。ただ現場は終わっていないから実際はみんな残っているんだけど。例えば今日は歓送迎会や忘年会があるから5時にはみんな学校を出てよなんていう時に、子ども教室だけ電気が点いていたということは年に1回か2回はあるでしょうね。でも、そこは何とかでもなります。 |

| | |
|---------|--|
| 柳本委員 | やはり保護者のお迎えということがしっかりとした頼りです。冬場は5時前に暗くなりますからね。 |
| 伊藤（邦）委員 | 学校の方は勤務時間を過ぎていても、職員はまだたくさんいますから。 |
| 柳町委員 | すみません。先ほどありました定員については、それぞれの状況に応じて保護者の意向に沿う形で100名を越しても受け入れると。それでも実際に来るのは30人から40人くらいなので、それで安全に配慮しながらやっつけていけるということを確認したということでしょうか。 |
| 櫻井次長 | <p>今いろいろなご意見が出て、できることとできないことというのは当然あると思いますので、そんな中で時間については基本的には後ろの方へずらしてもいいのかなと思います。指導要領の関係で授業時間も違うということで、後ろの方へずらして運営していただくということをお願いできればと思います。</p> <p>それから登録者の関係ですが、それぞれ学校の施設関係がありますので、施設関係もみながら、現状ですと西枇杷の場合などはある程度登録者を制限しないと安全性の確保という最大の目標の中で枠をとらせていただくという形ですね。</p> <p>他の教室は登録に枠を設けないと言いながら、無制限ではないわけですね。たとえば時間も今回後ろにずらすということで利用形態の人气が高くなることは、反対にいうと自由に登録ができれば保険のようなかたちであまり利用しなくても登録だけされる方も見えて、実際の参加率という意味では特段増えていかないかもしれないですが、一番心配するのは清洲小学校さんは児童数全体の枠がかなり大きいので、受入人数は無制限といえども無制限ではないということを念頭に置いていただいで運営をしていただくことをお願いしたいと思います。</p> <p>私個人としては全教室で基準をそろえると説明しやすいんですが、個々の教室によって事情もありますので、そこは現場の方とも柔軟に連絡調整させていただきながらやっていきたいと思っています。</p> <p>年度の当初は一斉に来ますので、今まで100人だったところが150人となり200人となりますので、ある時には制限ということも安全のためには必要ということで考えていかなければなりません。</p> <p>それではコーディネーターの方々から、新年度に向けての時間もだいぶ少なくなってきましたので、今ここで運営方針についてアドバイス等がございましたらお願いします。</p> |

| | |
|------|---|
| 鈴木委員 | 募集に係ることなただけけれども、どういう計画ですか。広報等で周知するのではなくて、学校を通して保護者に案内を配布するというかたちになるのかな。 |
| 三輪係長 | そうでございます。広報ですと、実施していない学校もございますので。 |
| 鈴木委員 | それはいつやられるのかな。そういう質問がたくさん来ていますので。募集はどうなっていますかと。 |
| 三輪係長 | 2・3年生は3月の半ば頃を予定しております。 |
| 鈴木委員 | 3月半ばですね。その時に今ここで話し合ったことを踏まえて、保護者に案内をするんですね。 |
| 三輪係長 | はい、そうです。 |
| 鈴木委員 | 登録をするために3月の修了式までに提出をしてもらうということですね。それで出した子は4月の始業式の翌日から通いだすと、こういうことですね。 |
| 三輪委員 | そうですね。それで新1年生は入学式をしてからすぐ辺りで学校にお願いして配布をしてもらって、通知を出すというかたちをとります。 |
| 鈴木委員 | 説明会はどうですか。 |
| 三輪係長 | 説明会は1年生を対象に行いますので、4月の半ばですね。 |
| 鈴木委員 | なるほど。要綱だけ配っておいて、4月の半ばに新1年生だけ説明会をするということですね。それで新1年生は来年度の場合、5月6日の金曜日からということでもいいですか。 |
| 三輪係長 | そうです。 |
| 中田委員 | それと今日決まったことの報告ですが、今在籍している保護者の方も |

どうなっているのかなとすごく気にして知りたいと思いますが、そういうことは私たち指導員が勝手に話すんですか。それとも紙でこういうふうに決まりましたとしていただけるんですかね。

内田教育長 | その方がいいんじゃないか。

浅野部長 | 事務局で出した方がいい。

三輪係長 | そうですね。

中田委員 | いつもこの運営委員会があるのに、何を話したんですか、どうなったんですか、全然私たちに報告がないじゃないですかと言われますので、そうですねとお答えしてしまして、1年間待ちましたのでよろしく願いします。

それとカードケースはどうになりましたか。

三輪係長 | はい、それについてお話します。

カードケースは新川と春日は A4 のプラスチックを使っております。清洲と西枇杷島はこちらを使っております。少し予算もかかりますし、封筒なんかではどうかなと思っているんです。B4 くらいのサイズで。

柳町委員 | 毎日持ってくるものですから、それはちょっと耐えられないと思います。丈夫さにおいてね、子どもの使うものですから。

三輪係長 | やはり耐えられないですか。

畑本委員 | 今のものでも、ジッパーがもう駄目ですね。

鈴木委員 | それは教育委員会で保護者に配布していたの。

三輪係長 | そうです。

鈴木委員 | 費用は保護者もちではなくて。

三輪係長 | ええ、保護者もちじゃないです。

| | |
|------|--|
| 中田委員 | 春日はかばんに入らないんです、それで少し曲げて入れるんですけど、みんなの織り方が違って、ぐしゃぐしゃになるんです。それからジッパーは必要ないんですね。なので、このサイズのカードケースはないですか。 |
| 荻本委員 | 今使っているそのケースはいいんですけど、中が見にくいんですよ。その編み目がない透明なものはないですか。 |
| 三輪係長 | なかなかないんですよ。そうすると値段が上がってしまうんです。でもカードは中を開いて出すものですけど。 |
| 荻本委員 | それが開けなくても確認できると楽なんですよ。 |
| 鈴木委員 | そういうことね。 |
| 浅野部長 | 三輪くん、それは実際、単価はいくらなの。 |
| 三輪係長 | 170 円です。 |
| 浅野部長 | 170 円だったら保護者にお願いをしたら。 |
| 三輪係長 | 今の保険代 500 円に上乗せして、こういう透明のケースをですか。 |
| 中田委員 | 保護者に自由にご買ってくださいというと、様々なものになってしまうので。 |
| 浅野部長 | こっちがそろえて買うというのは。 |
| 中田委員 | そろえて。こっちが買って、その分をお金で。 |
| 浅野部長 | 細かい話だけど。でもそうしないと予算がないわけでしょう。いくらになるんだ。170 円かける。 |
| 三輪係長 | 登録 120 人として。 |

| | |
|------|---|
| 浅野部長 | いや、全部だよ。全体で。 |
| 鈴木委員 | 500人くらいじゃない。 |
| 三輪係長 | そうですね。大体そのくらいですね。 |
| 浅野部長 | そうすると6・7万円くらいか。 それで封筒にしたらどうかという話か。でも中が見えない。 |
| 畑本委員 | ぼろぼろです。絶対に。 |
| 浅野部長 | だったら、170円は出してもらえないのかな。 |
| 鈴木委員 | 保護者としてはどうですか。僕は出してもらえればいいと思うんだけど。 |
| 畑本委員 | そのくらいはいいと思います。 |
| 西川委員 | 100均とかでもあるし、大量だから問屋さんで買うとか。何百部でしたら。 |
| 鈴木委員 | 僕は自分で用意してもらった方がいいと思うけどな。 |
| 三輪係長 | 透明なやつを用意してくださいと。 |
| 柳町委員 | ただね。40人くらいの子の分を事務処理するのにね、規格を統一しておかないと、もう煩雑になりますよ。 予算うんぬんの話も現実のことだと思います。保護者の方の負担は今500円で全てです。日ごろの活動で使うものや遊ぶものは、教育委員会から本当に少ない予算をいただいて、あのいい意味ですよ。やりくりしながら一生懸命やっている。これはみんな一緒だと思う。 それで私たちも子どもたちに何かやってやりたいということで、内緒の話ですが自分たちでポケットマネーを出し合って100均で買ってくるんです。そうすると子どもたちも喜んでくれますよ。これは余話ですが。 そうことも考えますと、これはイメージですが、例えば保護者の方から最初に1,000円いただきますよというふうにする。勿論、会計は明朗 |

にして運用します。1,000 円ということであれば、保護者の方もそれでその子どもたちを楽しませてくれるのであれば結構ですよと、必ず賛同していただけたと思います。むしろ、そうして子どもたちのニーズにも応えていきながら、例えば毛糸球のひとつやおはじきのひとつも買ってあげられるような、ある程度自由に使えるお金で子どもたちに還元できるのであれば、1,000 円をいただいても保護者には喜んでいただけたと思います。

中田委員

また、1,000 円を払うなら、登録だけの人でも、少し余分に払っているから何回か行かせようかなというふうになるかもしれない。参加人数も増える。

内田教育長

それはいいけれども、そうすると先生たちに会計をやってもらわないといけない。

柳町委員

それはもう。

内田教育長

手間がかかるけど、いい。

鈴木委員

それは駄目だな。逆に年に数回しか来ない子についても 1,000 円を集めて、保護者から細かいことをおっしゃられた場合、返金をしないといけない。

中田委員

じゃあ、ケース代は出してくださいということでは。

鈴木委員

そう、それならいいんだけどね。自分に係るお金しか集めてはいけないと思うんだけどな。使わないもののお金を取るというのはちょっと。

内田教育長

そうだな。

中田委員

じゃあ、500 円とケース代と。

三輪係長

ケース代は納付書に書けないですね。

櫻井次長

その辺りも含めて、予算とにらみ合いをしながらですね。それで先ほど言われるように、たかが何百円ということで話が進めばいいわけです。

が、たかが 100 円であろうとも、お金を集める場合には、しっかり説明できるようにしておかないといけません。やはり統一してこれという、いろいろなご意見が出てくるということは当然予想されますので、その辺りを踏まえてこちらの予算の中でできることも考えながら、コンパクトで中が見えて整理がしやすいものということで、こちらの方でない知恵を絞らせていただきます。

先ほど 23 年度の子ども教室の運営方針ということでお話をいただいて、議事項目でいうと「その他」のところに入っていきわけですが、何かございましたらどうぞ。

荻本委員

要綱の方には、保護者さんにも必要に応じて子どもたちが使う用品、材料費を負担していただくことがありますのでという記述があるわけですが、前伺った時に、これはもう集めてはいけないということですよ。

三輪係長

ええ、やはり会計上そういうことをやると、繰越などがあると監査で問題になるものですから。鈴木先生のお話にもあるように、やはりそうしたことは問題になりますので、そういうことはなるべくやらない方がいいなと思いました。

荻本委員

では、ここは削っていただいてもいいですか。

三輪係長

分かりました。

荻本委員

それからあと、かばんに付ける印ですが、それがずれ落ちてしまうんですね。何かいいものはないですか。

三輪係長

テプラですか。

荻本委員

いや、かばんの。

中田委員

お母さんが作るやつね。

鈴木委員

あれは学校によってまちまちでしょ。

三輪係長

いや、テープのやつですよ。西枇杷は。

| | |
|-------|--|
| 保護者一同 | そうなんだ。 |
| 中田委員 | 春日はお母様方に作ってもらっています。 |
| 畑本委員 | 手作りです。 |
| 鈴木委員 | だからいいね。 |
| 内田教育長 | どういようなものなの。 |
| 柳町委員 | 新川はですね、玄関マットの下に敷く滑り止めを使って、あれを細く切りまして、巻いてから裏を留めるようにしています。その強さを調節すると意外とずれない。 |
| 三輪係長 | 清洲は児童館に合わせて、その色違いを使っています。 |
| 中田委員 | いろいろですね、でも春日はお母さんも面倒かも分からないけど、白い布にゴムテープを二本付けて、それをランドセルの蓋につけるわけです。外れるものもありますが、それがお母さんの愛情たっぷり、いろいろな模様を付けたりと。それがお母さん同士の競争のように素敵になっています。 |
| 畑本委員 | アップリケを付けたら、かわいくやっていますね。 |
| 中田委員 | ただ白い布地だけの子は、子どもは満足しているのかなと思えて、いろいろなんですけれども。だけどもみんな、お母さんの思いが伝わっています。作れないですと言われるお母さんもいらっしゃるし、そういうお母さんはどうされているんでしょうか。お友達に作ってもらうんですかね。でもそれなりに皆さんやられていますよね。 |
| 畑本委員 | それなりにやっていますね。 |
| 中田委員 | あと、子どもが勝手にタオルを巻いて、来てしまうということも1度ありました。登録もしていないのに、自分が来たくて突如来るから、「あなた、だあれ」と聞くと「放課後に行きたい人は白い布を巻いていけばいいんでしょ」と言うので、それは駄目だねということになりました。 |

| | |
|------|--|
| | <p>そういうこともありましたが、お母さんもそれぞれ工夫していただいているので。</p> |
| 畑本委員 | <p>それぐらいはいいと思う。行かせるわという思いもありますし。</p> |
| 中田委員 | <p>一応小学校で家庭科もやっているわけだから。 でも、西靴の場合、そうやって落ちてしまいますということなら、何か対応しないといけないんだけど。</p> |
| 三輪係長 | <p>新川の場合はどうですか。同じのを使っていますけど。</p> |
| 柳本委員 | <p>私のところは、それで定着していますけれども。それで落ちませんね。</p> |
| 西川委員 | <p>大丈夫ですね。ゴムが伸びてきたら、ホチキスで留めればいいので、とても簡単ですね。</p> |
| 三輪係長 | <p>また伸びてきたらホチキスで留めていただくようにしてください。</p> |
| 中田委員 | <p>それは行政からもらえるんですか。</p> |
| 三輪係長 | <p>最初は配っていましたが。</p> |
| 中田委員 | <p>春日ってもらいましたか。</p> |
| 三輪係長 | <p>配ってないですよ。自分で作るから要らないと言ったじゃないですか。</p> |
| 中田委員 | <p>そうですね。</p> |
| 櫻井次長 | <p>今のそれも含めて全体の予算の中で。</p> |
| 柳町委員 | <p>すみません。先ほどの予算の話ですが、今年度私たちは子どもたちに還元する消耗品代として、20万円をいただいております。有効に使わせていただきました。子どもたちにこれでイベント行事や材料費、消耗品代と色々なことをやりまして、どこかに安いものはないかと様々工夫をしながら使っております。かたや児童館の方は毎月2,500円など決まったお金があつて、それはそれなりに潤沢なことができますので羨まし</p> |

い限りなんです、私達にはそういうことはありませんので、これでやっていくわけですが、この財政難の厳しい折ではございますけれども、是非ですね、この予算を減らさないでいただきたいと、お願いしたいと思います。これは要望です。

三輪係長 | もう予算案が出ていまして、かなり減っています。

柳町委員 | だとしたら、100均を使えるようにはならないですかね。

中田委員 | それか現金で私達にください。それを使って100均に買いに行ってきます。ちゃんと領収書ももらってきます。

柳町委員 | できるだけ子どもたちにそんなことをやってあげたいという気持ちですね、すごく強いです。それがね、なかなかできない。これで予算を減らされて、来年は人数も増える。どうしよう。

鈴木委員 | 100均はいくつか店があるでしょ。100均の店は掛売りは駄目なんですよね。それはそういうふうに教育委員会から話をしてもらうことは無理なのかな。

三輪係長 | 会計上、現金は絶対に駄目ということになっているんです。

鈴木委員 | ロイヤルさんなんかはオッケーでしょ。

三輪係長 | 交渉には行っているんですが、現金しか駄目と言われるんです。

鈴木委員 | それは100均のショップ側から。

三輪係長 | ええ。

鈴木委員 | まあ、面倒くさいもんね。

三輪係長 | 面倒くさいというか、後からお金を払うかたちですので、現金商売のところは掛売りをしないんですね。

鈴木委員 | ああ、そうか。

- 柳町委員 | 　　だけど、児童館のやっておられるようなことに対して、私たちも一生懸命やってあげたいんですが、その時に保護者から集めては駄目、予算も減らされる。来年から人数も増える中でやってあげたいことがあるという、もうこれは現実問題、もたないような気がしますね。
- 中田委員 | 　　じゃあ、これは 100 均で使ってもいい 5,000 円、あるいは 10,000 円というふうに、紙かなんかでやれないですか。
- 櫻井次長 | 　　本当言うと、お金を有効に使うという、皆さんが日常でやっておられるようなこと自体ができないシステム上の制約が一部にあるということですね。普通ならばきちんと清算すれば、お金を先に渡しても使ったお金と合うんですが、取り扱える人に制限があったり、会計課で先渡しをすること自体が制限されていたりということですね。監査などで全て指摘されて、後でということになる。
- そういうようなことで、ここで買えば 2 つのところを、あちらでは 5 つも 6 つも買えるのに、どうして高いところでしか買えないのという疑問が当然あるわけですが、個人的にはさっさとやりたいぐらいですが、それはやれないという制約がありますので。
- それで予算の枠自体も全体的に縮小傾向にある中で、例えば今 4 つある子ども教室を 5 つに増やそうとした場合には、よそから予算をかき集めなければならんという枠の中で運営をさせていただいていますので、100 パーセントに満足いくということにはなりませんけれども、これまでもそうですが、また保護者の方々や地域の方の善意もいただきながら運営をしていただければと思います。
- 「その他」ということでいろいろとお話をいただきました。環境劣悪の中で先生方にはいろいろとご苦勞をおかけしますが、これからもよろしくをお願いします。
- 荻本委員 | 　　すみません、ロイヤルのカードは各教室にはいただけないですか。
- 三輪係長 | 　　紛失すると困りますので、教育委員会でひとつなものですから。
- 中田委員 | 　　面倒くさい。
- 荻本委員 | 　　そこがちょっと面倒なんですけれども。

鈴木委員 | 学校は2つ持っているでしょ。

三輪係長 | 学校は2つあるんですか。

鈴木委員 | 確か2つあるはずだよ。学校から借りてきたら。駄目かな。いや、いい。最終的には教育委員会の予算だから。

三輪係長 | いや、学校のものには請求書が学校名になりますので。

浅野部長 | それは何。それなら掛売りができるのか。カードを持っていくと。

三輪係長 | そうです。

中田委員 | だから毎度三輪さんのところに取りに行かなくては行けなくて、それで買い物に行って、また三輪さんのところへ返しに行って、その後子ども教室に戻ってくるから、1時出勤から子どもが来る3時までの2時間はバタバタです。全部計画的にしないと買い物に行けないんです。

三輪係長 | それから予算ですが、講師の謝礼代として、2,000円を5回分ということで予算化をしました。

柳町委員 | 流用ということはいけないわけですよ。本当に切実だな。

鈴木委員 | それはおそらく講師の方に印鑑などをもらって、支給は教育委員会から振込みがされるということ。

三輪係長 | そうです。振込みでございます。

中田委員 | それで予算はいくらもらえるのか。今から発表はないんですか。

三輪係長 | まだ発表はないです。

中田委員 | この2,000円かける5回は減りましたね。

三輪係長 | 春日町の頃と比べてですか。

| | |
|---------|---|
| 中田委員 | はい。 |
| 柳町委員 | そういうところこそ、本当に皆さんがボランティアでやってくださっている姿がたくさんあって、大変ありがたいですね。 |
| 伊藤（邦）委員 | ごめんなさい。12時に会合がありまして、途中ですがここで失礼いたします。 |
| 三輪係長 | ありがとうございました。 |
| 内田教育長 | 町時代と違うからね、市になると段々、難しい。 |
| 中田委員 | そうですね。でもそれが市町合併の思惑だから、仕方がないのかな。 |
| 櫻井次長 | <p>合併の思惑というか、それは皆さんから頂いている貴重な税金の使い道を明朗にしておかないといけないという意味での制約ということで、申し訳ないですが。</p> <p>今も「その他」の中でいろいろとご意見をいただいたんですが、できることとできないことがありますけれども、こういう時でないと教育委員会は耳を貸さないということではございませんので、いつでも何かありましたら、いい教室になるように達成できるものは皆さんといっしょにやっていきたいと思えます。予算はない中ですが、知恵だけはできますので。</p> <p>まだ、お話ししたいこともあると思えますけれども、今日のところはこれで清須市放課後子ども教室運営員会を終わりにしたいと思います。皆様大変お疲れ様でございました。</p> |
| 一同 | ありがとうございました。 |

以上